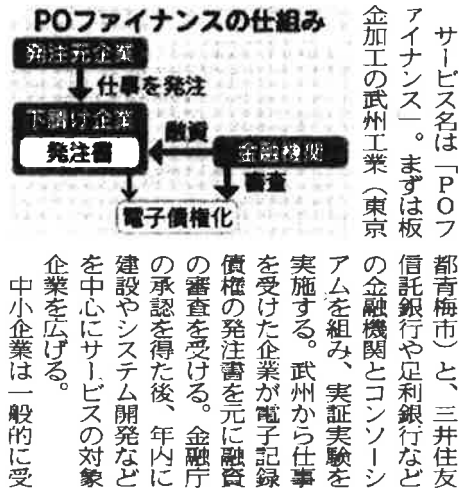


# 商品受注段階で融資

## トランザックス 電子債権を担保に

金融とIT(情報技術)を融合したフィンテックベンチャーのTranzax(トランザックス、東京・港、小倉隆志社長)は4月、下請け企業が商品の受注段階で発注書を元に金融機関から融資を受けられるサービスを始める。中小企業の資金繰りを円滑にすることで新製品開発や設備投資を促す。



注した製品を納入してから代金を受けとるまでに3〜4カ月かかる。将来見込まれる売り上げを担保に融資を受けることは難しく、新技術導入や設備投資のための手元予算が確保できなかった。

トランザックスは昨年7月、それまでメガバンクなどに限定されていた電子債権記録業の指定を受けるサービ

ベンチャーとして初めて中小企業が売掛金が発生する前の「仮の売掛金」を電子債権として担保に融資を受けられるサービスを展開している。今回は一歩進み、売掛金が発生する前の「仮の売掛金」を電子債権として担保に充てる。